

「読楽コーナー」学生選書 活動報告

衣笠図書館、メディアライブラリーにおいて、学生有志による読楽コーナーの学生選書を行い、選書した本を2013年12月9日に展示しました。学生目線で選んだ読みたくなる本がたくさんあります。ぜひご利用ください。

衣笠キャンパス

テーマ▶「作家鉄道 Choice Choice Choice」

文系1回生3名、2回生1名の4名が、幅広い分野の図書を読んでもらいたいとの思いから、選びました。



びわこ・くさつキャンパス

テーマ▶「こたつとみかんと本」

理系3回生1名、4回生2名の3名が読んでもほっこりできる本を選びました。



加藤周一文庫『新聞・雑誌に見る加藤周一』を開催しています。

2015年秋、衣笠新図書館の開館に合わせて、「加藤周一文庫」が創設されます。加藤周一(1919-2008)は、本学の国際平和ミュージアム初代館長であり、20世紀日本を代表する国際的知識人です。加藤周一が残した蔵書、手稿ノート、資料類が本学図書館に寄贈されましたが、そのうち蔵書の一部、約12,000冊が文庫創設時に公開されます。



前回の「海外報道に見る加藤周一」に続く第2弾として、今回の展示では多様な分野で活躍した加藤周一を、国内新聞記事や雑誌、計13点を通して紹介しています。

加藤周一は文学に限らず、文化、芸術、政治等さまざまな分野で活躍しました。一つの分野にとらわれることなく、多面的に物事をとらえていた加藤周一が、分野をこえて活躍していた姿を感じることができます。



読書マラソン・立命館コメント大賞表彰式が行われました。

2013年12月20日朱雀キャンパスにて、第9回読書マラソン・立命館コメント大賞の表彰式が実施されました。74通の応募から、生協理事長、図書館長等審査員の審査により、グランプリ、準グランプリ、生協理事長賞、図書館長賞等が選ばれました。

コメントは、エンターテインメント作品の他、日本の名作、哲学書、海外の名作等織り交ぜて多様なジャンルで応募されていました。

なお、全国コメント大賞では、銅賞を文学部の学生、附属校の中学生が射止めることができました。

読書マラソン・立命館コメント大賞は、毎年6月頃から募集を開始予定です。ぜひ、ご参加ください。

読書マラソン・コメント大賞とは

読書推進を目的に、全国大学生協が、「4年間で100冊読もう」をキャッチフレーズに行っている取組みです。立命館大学でも「立命館コメント大賞」として実施しています。詳細は、各キャンパス生協書籍部までお問合せください。

Library Navigator



CONTENTS

- P.2 学びの“森”へー図書館からのメッセージ
- P.3 図書館は「学びのコミュニティ」
- P.4 学生ライブラリースタッフの活動紹介
- P.10 新しい世界を知ろう! ~海外留学経験者からのお勧めの一冊~
- P.11 2013年度 館別ベストリーディング利用ランキング
- P.12 Information

Special Feature

学生ライブラリースタッフから新入生へ贈る一冊 P.5~7

Series

衣笠図書館の思い出~校友からのメッセージ~ P.8~9



学びの“森”へ —図書館からのメッセージ

入学おめでとうございます。

各キャンパスの図書館は皆さんを心より歓迎します。

大学での勉学は自主自立。それぞれの専攻領域において、基礎からの積み上げが必要であるとしても、修得が自らの関心と選択によるものである以上、その取り組みには無限の可能性が秘められています。可能性を1つ1つ現実的なものにしていくのに、図書館は役に立ちます。

図書館には、学習や研究を進める上で必要となる図書資料を収蔵しています。調べたり勉強したりすることのできる広く静かな閲覧スペースを確保しています。レファレンスでは、図書資料の探し方や入手の方法を知ることができます。近年、デジタル化の進展めざましく、データベース、電子ジャーナル、アーカイブ化された古典籍など、図書館資料へのアクセスも格段に拡大してきています。加えて、本学図書館に設けられている「びあら」では、研究発表の準備など、グループでのダイナミックな共同学習に、設備と支援を提供しています。

図書館は知的資源が集積する“森”のようなものです。書架にはさまざまな分野の書物が樹林帯のように配架され、老木、若木、大木から灌木まで。変化しつつあるフロントには、最新の学術情報を盛るカレント雑誌が小川傍の草花のように並び、森に入ったところには、オープンな草地。樹木に囲まれたその明るい広場で、まぢまぢに集い、自由に研究し、あれこれ議論できるのです。しかもこの森は、今日、巨大な仮想空間へと開かれ、様々なネットワークを介して種々のデジタル・コンテンツにもつながっています。まさに、皆さんの探求を助け、それぞれの知的成長を育む「学びの森」です。

図書館に足をはこんでください。

そして、その豊かな資源を十二分に活用してください。



立命館大学図書館長
法学部教授

平野 仁彦

館長お褒めの一冊



谷川俊太郎『定義』(思潮社、1975年)

*『続・谷川俊太郎詩集』(現代詩文庫;108) 谷川俊太郎 著(思潮社) 1993年に所収

コップ、鉄、りんご、道順。何でも無いものに迫る言葉の確かさ、豊かさ、緊張感。迫ってせまり切れないもどかしさの中に、しかし何でも無いものを越える知性のきらめきがある。日常的なものの中にある非日常一。そこには、理系・文系を問わず、読む者を通念の向こう側へ連れて行く力がある。実体と概念、概念を支えるカテゴリー、そして、カテゴリー間の相互浸透と循環。例えば「りんごへの固執」。例えば「灰についての私見」。言葉による接近はかなわぬ試みだが、実体をめぐる理知の形には美しさがある。短い詩に、学ぶということの原点とその超越性が示されているように思われる。

図書館は「学びのコミュニティ」

図書館は知的活動の拠点として「主体的な学習の支援」「教育・研究支援」「コミュニケーションの場の提供」などに努めています。

図書館
基礎データ

- 図書資料：約310万冊
- 雑誌タイトル数：約4万2千タイトル
- 視聴覚資料：約5万件
- 電子ジャーナル：約7万4千タイトル
- 年間入館者数：約230万人
- 年間資料貸出冊数：約60万冊

衣笠キャンパス
修学館リサーチライブラリー

社会科学分野と外国語関係の研究資料を所蔵



衣笠キャンパス

衣笠図書館

人文科学・社会科学分野の学習資料を中心に所蔵



衣笠キャンパス

人文系文献資料室

人文科学分野の研究資料を所蔵



立命館大学図書館の4つのミッション

- 1 学術情報基盤としての図書館
- 2 知的探求・コミュニケーションの場としての図書館
- 3 研究を支え、成果を発信する図書館
- 4 学生の学習と成長を支援する図書館

びわこ・くさつキャンパス
メディアライブラリー

経済学・経営学・スポーツ健康科学分野の資料を中心に所蔵



びわこ・くさつキャンパス

メディアセンター

理工学・情報理工学・生命科学・薬学分野の資料を中心に所蔵



朱雀キャンパス

朱雀リサーチライブラリー

法学・経営学・行政学分野の資料を所蔵



図書館の学習空間



ピア・ラーニングルーム

グループ学習やアクティブラーニングなどを実践する空間



衣笠図書館



メディアセンター



メディアライブラリー



新着図書コーナー



教員お薦め本コーナー



読楽コーナー



サービス・レファレンスカウンター



書架



閲覧室

学生ライブラリースタッフの活動紹介

「学生ライブラリースタッフ」は、利用者である学生の視点と図書館のスタッフとしての視点を活かし、より良い図書館サービスを目指して、学生ならではの提案や実行力で、日々、様々な活動を展開しています。



衣笠キャンパス



村田 綾香さん
法学部 法学科 2回生

私たち学生ライブラリースタッフは、学生の目線から図書館をよりよい環境にするため活動しています。返却された本を正しい位置に戻したり、乱れた書架を整理したりすることももちろん、図書館ツアーや、データベースの使い方講座なども行っています。またプロジェクトと呼ばれる業務もあり、毎月おすすめの本を紹介する「図書紹介」、掲示物やパンフレットを作成する「広報」、そして、図書館HPの「図書館へ行く」のコーナーを担当する「ホームページ」に分かれて活動しています。図書館は、びあらなどの設備やHPの便利なデータベースなど、上手く活用すれば勉強にも課外にもとても役立つ場所になっています。分からないことがあれば私たち学生ライブラリースタッフに気軽に声をかけていただいて、みなさんも図書館をぜひ積極的に利用してみてください。

びわこ・くさつキャンパス

学生ライブラリースタッフの活動は、利用される方々が快適に図書館を利用できるような環境づくりをすることです。必要な情報を素早く見つけ出せる環境であると同時に、図書館が親しみやすいと思えるような環境づくりを日々試行錯誤しています。

初めて図書館に足を運んでみたときに「大学の図書館って小説とか少ないし、雑誌って言っても娯楽雑誌じゃないし、つまらないところだな」と思った方も少なくないと思います。そういう方はゆっくり時間をかけて、本の背表紙を眺めてみてください。自分の興味のある分野がわからない方は、教授や私たち学生ライブラリースタッフがおすすめする本を見てください。きっと手に取りたくなる一冊があるはずです。知りたいことがあったらなんでも聞いてください。皆さんにとって図書館が快適な空間であるようにお手伝いします。



杉森 洋平さん
経済学部 経済学科 2回生



特集

学生ライブラリースタッフから 新入生へ贈る一冊

Contents ①本人情報 ②書誌情報

本と接する機会の多い学生ライブラリースタッフが、大学生活の第一歩を踏み出したばかりの新入生にお薦めする一冊を紹介します。



憧れの大学生活。「フツー」なんてイヤですね。この本は些細な気の持ちようでフツーからエキサイティングに変身した大学生の事例を紹介する一冊です。皆さんもぜひエキサイティングな大学生活を送ってみませんか！

- ① 中塚 友博さん
法学部 法学科 3回生
- ② 『フツーな大学生のアナタへ：大学生活を100倍エキサイティングにした12人のメッセージ』
桑島 紳二、花岡 正樹 著（くろしお出版）2008年



- ① 山本 あかねさん
政策科学部 政策科学科 4回生
- ② 『きみたちはどう迷うか：これからキャリアを築くために必要なこと』
酒井 穰 著（大和書房）2012年

最良の選択のために学び考え続けることが大切だと教えてくれる一冊です。学生生活の中では決断を迫られる状況が多々あります。後悔しない選択をするためにも、視野を広く持ち、様々なことに挑戦し、ぜひ多くのことを学んでいってください。



大学に入学すると定期試験の代わりにレポート提出を求める授業が数多くあります。レポートは作文とはどう違うのか。レポートを書く手順やまとめ方など、この本は丁寧に解説してくれています。レポート課題をする前に、ぜひ読んでみてください。

- ① 宮崎 智子さん
映像学部 映像学科 2回生
- ② 『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』<第2版>
吉田 健正 著（ナカニシヤ出版）2004年



大学生の日常、大学生のリアルな感情が詰まっています。痛くてカッコ悪くても、ありのままの自分であげばいいんです。自分との向き合い方を教えてくれる作品です。これから大学生活が始まるあなたにおすすです。

- ① 松谷 萌さん
国際関係学部 国際関係学科 3回生
- ② 『何者』
朝井 リョウ 著（新潮社）2012年





特集

学生ライブラリースタッフから新入生へ贈る一冊

Contents ①本人情報 ②書誌情報



古典作品は、共感や新しい考え方の発見など、読むべき価値あるもの

です。その契機として、新しい環境の今、本書を読んでみてください。古くから大事にされる「つながり」に、今後の歩みに役立つ学びが潜んでいます。



- ① 鈴木 希実さん
文学部 人文学科 3 回生
- ② 『つながる』(人生をひもとく日本の古典; 第3巻)
久保田 淳 他 著 (岩波書店) 2013年



- ① 富樫 重太さん
産業社会学部
現代社会学科 3 回生
- ② 『ホモ・ルーデンス』(中公文庫)
ホイジンガ [著]; 高橋 英夫 訳
(中央公論社) 1973年



ホイジンガによって「遊び」が文化的な側面から捉えられ、近代合理主義に蔓延する「まじめさ」「手段的行為」などが批判される。私たちに「大学」や「学ぶこと」の動機を問いかけているようにも思える、モラトリアムの古典。



- ① 爲平 梨紗さん
理工学部 都市システム工学科 4 回生
- ② 『女王の百年密室: God save the Queen』(新潮文庫)
森 博嗣 著 (新潮社) 2004年



森博嗣さんの作品は、いつも自分の知らない新しい世界を教えてください。不思議な世界に迷い込んだ主人公が冒険を通じて成長していく様は、新入生になりたての学生生活に不安や希望で一杯な人にも心強い一冊になると思います。



- ① 松木 ひとみさん
情報理工学部 メディア情報学科 3 回生
- ② 『メディアの仕組み』
池上 彰、津田 大介 著 (夜間飛行) 2013年



ニュースがつまらない! それはメディアがあなたの知りたいことを教えてくれないからではないでしょうか。どうして教えてくれないのか、どうすればいいのかが、池上お父さんの口から語られます。



- ① 前田 木実さん
生命科学部 生命医科学科 4 回生
- ② 『入門考える技術・書く技術: 日本人のロジカルシンキング実践法』
山崎 康司 著 (ダイヤモンド社) 2011年



大学生活において身につけたいスキルのひとつであるロジカルシンキング。

日本人向けのロジカルシンキング&ロジカルライティングの入門書である本書は、文書を書く際はもちろん、論理的な判断が要求される際にもきっと役立つはずです。



「学びの仲間を探し出す」この言葉は、大学での「学び」を象徴する言葉です。大学は勉強するだけの場所ではありません。様々な人と出会い、価値観を形成する場です。本書は「学び」のスタートラインにたたせてくれますよ!

- ① 石井 大統さん
経済学部 経済学科 3 回生
- ② 『学びの第一歩: 大学の主人公になる』
和田 寿博 [ほか] 編著 (新日本出版社) 2003年



日本で最初の女医となった女性の物語です。どんな逆境にあっても自分を信じ、信念を貫くことで道を開いた主人公に心惹かれました。学ぶことを通して自分にしかできないことを見つける原動力となった一冊です。

- ① 脇本 小百合さん
薬学部 薬学科 4 回生
- ② 『花埋み』<改版> (新潮文庫)
渡辺 淳一 著 (新潮社) 1987年



- ① 張 婷婷さん
経営学部 経営学科 3 回生
- ② 『パーネ・アモーレ: イタリア語通訳奮闘記』(文春文庫)
田丸 公美子 著 (文藝春秋) 2004年

私が通訳に興味を持っていると聞いた友達がこの本を紹介してくれました。勿論イタリア語を勉強したわけではありませんが、通訳という仕事の楽しさや大変さがおもしろく書かれていますので、通訳に興味を持ってなくても是非一度読んでみてください。



- ① 御前 純さん
スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科 3 回生
- ② 『夢を跳ぶ: パラリンピック・アスリートの挑戦』(岩波ジュニア新書)
佐藤 真海 著 (岩波書店) 2008年

本書は、骨肉腫により右脚の一部を失った著者が、新たな出会いを通じて笑顔を取り戻し、アスリートとしての新たな未来へと駆け出していく過程を描いています。本書を読み、困難に負けず夢に挑戦する姿勢を学んでみませんか。



recommend books...

衣笠図書館の思い出

～校友からのメッセージ～

第1回

窓から3席目の原点

経済学部2回生の時に私は、試験に合格すれば外務省に入れることを知った。ただ、試験科目中まず憲法と国際法は全く未知の科目であったのに加え、一般教養のレベルも高く足切りもあるという。そして理論経済学も、当時マルクス経済学一色だった立命館で学んでいた内容はほとんど役に立ちそうにはない。外交官という職業は遙か遠い夢に思えた。

それでも、熟考を重ねた末、英語読書研究会(ERS, English Reading Society)の部長を1年間務め終えた後の3回生9月、その夢を追いかけるため私は文字通りゼロから勉強を始めた。朝9時の開館時に基本書等を抱えて衣笠図書館に入り、夜9時の閉館前に退出して徒歩で下宿に戻るといった生活を約1年続けた。図書館内ではいつの間にか、夏期等必要時には適度の風通しがあり、通路部分にも接していないので気が散る機会も少ない「窓から3席目」が私の指定席になった。その席で私は、入省すれば2年間与えられるという外国での語学留学に淡い憧れを抱きながら、同時に、勉強方法等につき一人で思い悩みながら受験準備を続けた。昭和54年秋、幸運にも合格をいただいた。

さて、外交の現場は厳しい。様々な分野の交渉も通訳業務も邦人援護活動も、語学力と知識・経験、それに、最後までやり抜く気概が必要となる。そしてそのためには、自らの能力を高めるための不断の努力と、常に現れる新たな課題に果敢に挑んで行く姿勢が求められる。

約8年間の海外勤務を終えて帰国した平成25年1月、私は入省30余年後初めて環境分野の多数国間外交を担当することとなり、ここでもゼロから勉強を始めた。どんな国際会議であれ、事前準備も実際の交渉も全力で奮励しなければ責任は果たせない。そして、交渉の現場で迷った時も、自分で判断して対処するしかない。いま、京都で過ごした学生時代を思い出すとき、そのことを私は衣笠図書館で過ごした1年間で学んでいたような気がする。孤独の中で試行錯誤の繰り返しだったあの頃の「窓から3席目」が、いまでも私の原点かもしれない。

大学図書館ほど万全の環境で思う存分勉強が出来る環境は他にない。新たに生まれ変わる衣笠図書館を学生の皆さんが最大限に活用されることを望んでやまない。



第19回気候変動枠組条約締約国会議
(於、ワルシャワ)にて。

外務省国際協力局地球環境課企画官

片山 芳宏氏(1980年 経済学部卒)

1980年4月外務省入省。本省では安全保障政策課、北米第二課及び官房総務課、海外では在ルーマニア大使館、在ニューヨーク総領事館及び在ウクライナ大使館等に勤務。2013年1月より現職、第2回化学物質・廃棄物拡大共同締約国会議(4月。於、ジュネーブ)、第11回砂漠化対処条約締約国会議(9月。於、ウイントフック)、オゾン層破壊物質に関するモントリオール議定書第25回締約国会議(10月。於、バンコク)等において日本政府首席交渉官を務める。

衣笠図書館は1967年に竣工され、以来約半世紀に亘って研究と学修に活用されてきましたが、2015年秋にはその役目を終え、新たに正門前に「平井嘉一郎記念図書館」が誕生します。この機会に、「Library Navigator」では、3回シリーズで様々な分野で活躍されている校友に衣笠図書館の思い出を振り返っていただきます。先輩方はどのような未来を描いてその青春の一時期を衣笠図書館で過ごしたのでしょうか？そこから皆さんへの熱いメッセージを感じ取ってください。

図書館が私に残したもの

衣笠キャンパスの東門を出て右に曲がり、30メートルほど歩くと、左手に「無限洞」という喫茶店があります。店内の壁には今も、紺地に刺繍をほどこした布が飾られているはずなので、機会があったら見て下さい。私と仲間が西アフリカのニジェールから持ち帰ったボロロという遊牧民の衣装です。

立命館大学の探検部員だった私と仲間の計6人は1991年の春、西アフリカのサヘル地域(サハラ砂漠周辺の乾燥帯)で暮らす人々の生活に密着し、ドキュメンタリー番組の制作などに挑戦しました。日本を発つまでの約1年間、週に一度は無無限洞の一番奥の席に陣取り、仲間と「ああでもない、こうでもない」と打ち合わせ(雑談?)したことを懐かしく思い出します。

我々のテーブルの上にあったのは、吸い殻でいっぱい灰皿(店内禁煙が徹底した今では考えられないでしょうが)、コーヒー、そして図書館から借りてきた本です。インターネットが存在しなかった当時、図書館所蔵の文献は、これから訪れるサヘル地域の様子を知ることができる数少ない情報源でした。アフリカでのフィールド調査の経験が豊富な京都大学や国立民族学博物館の先生方のところに押し掛け、読むべき文献を教えていただければ、大学の図書館で探しました。

23年前、私が膨大な手間と時間をかけて集めたアフリカの情報は、質と量の両面で、グーグルの検索で瞬時に得られる情報の足元にも及ばないでしょう。インターネットの登場と普及は、情報収集・発信の革命です。

しかし、他大学の先生方のところにまで足を運んだり、外国語の文献を探して図書館内を黙々と歩き回ったりした学生時代の経験は、私の中に何かを残したと思います。それは、敢えて言えば、インターネット上の情報検索では養われることのない「調べ抜く力」です。欲しい情報がなかなか見つからず、知りたいことに辿り着けないが故に、粘り強く、試行錯誤しながら調べ続ける力です。卒業後は新聞社に就職し、20年に渡って「調べて書く」を続けてきましたが、その作業に必要な力の土台は、学生時代に図書館を歩いたことで形成されたと思うのです。

毎日新聞ワシントン特派員

白戸 圭一氏(1993年 国際関係学部卒、1995年 国際関係研究科修士課程修了)

1995年毎日新聞社入社。外信部、政治部、ヨハネスブルク特派員、ワシントン特派員などを歴任。『ルボ資源大陸アフリカ』(東洋経済新報社)で日本ジャーナリスト会議賞受賞。単著に『日本人のためのアフリカ入門』、共著に『新生南アフリカと日本』『南アフリカと民主化』(ともに勁草書房)など。



新しい世界を知ろう！

～海外留学経験者からのお薦めの一冊～

新入生の皆さんは大学という新しい環境に心躍らせると同時に、少しの不安を感じているところではないでしょうか？ 今の皆さん同様、「海外留学」によって未知の世界に飛び込み、様々な経験を通して新しい発見をした先輩方がいます。今号では、本学の海外留学プログラム参加者が留学の前後や留学中に読んだ本の中から、新しい世界に気づききっかけとなった一冊、自分を変えた一冊を紹介いたします。皆さんも、更なる新しい世界に足を踏み入れてみませんか？



『ドイツ人と隣人たち』 H.シュミット著;永井清彦[ほか]訳(岩波書店)1991年

この本は1974-82年の間、西ドイツの首相を務めた著者H.シュミット氏が隣人であるヨーロッパの国々とのように良い関係を樹立したか、またドイツ再統一の土台作りなどを回想する本です。この本に出会ったきっかけは、事前学習の際に教授から頂いた資料の中にこの本の一部が載っていたからです。留学に行くにあたってドイツとはどのような国かを学ぶために、全体を通して読んでみることにしました。

留学前にこの本を読んだ時には、事前勉強の役に立ったなという感想しか抱かなかったです。けれども、日本に帰ってきてもう一度この本を読み直した時、シュミット氏のそれぞれの国の利害関係を冷静に判断し、調整する卓越した能力とドイツ再統一にける熱い思いがこの本から伝わってきたように感じました。一冊読み終えた後、私もシュミット氏のように…とまでは行きませんが留学先での貴重な学び・出会いを大切にしよう、出会った人との関係を切らさないようにしよう強く思いました。この本は単に外交の出来事が書かれている本というだけではなく、国家がどのようなものか、また国家間関係の根本となる身近な人間関係についても再び考えさせてくれる本だと思います。

牧野 健吾さん 理工学部 物理科学科 2回生
 留学先大学:アルベルト・ルートヴィヒ大学フライブルク(ドイツ)
 留学プログラム名:ヨーロッパスタディ
 留学期間:2013年2月～2013年3月(1ヶ月)



留学先の友人と(中央が牧野さん)

『A Lesson Before Dying』 Ernest J. Gaines 著, Knopf, 1993年

留学先の大学で第二セメスターが始まった頃、私はある一冊の本に出会いました。『A Lesson Before Dying』です。これはMulticultural Issues in Educationという教育の授業の中で、テキストの一冊として扱われた小説です。読んでいくうちに、心が傷んだことを今でもよく覚えています。この本に出会う以前、ある黒人の友人が、私が黒人についてどう思うかについて尋ねてきたことがありました。私は留学でアメリカに来る以前まで黒人の友人はおらず、彼等と深く関わったことはありませんでしたが、留学を通して黒人の友人もたくさん増え、フレンドリーでおもしろい彼等のことが

大好きになり、私はそのままの気持ちを尋ねてきた彼に伝えました。しかしこの本を読むうちに、私は彼等について何も知らなかったのだということを思い知りました。黒人差別の色濃い時代を写したこの作品から、彼等がどのような苦しみを味わってきたのかを、差別の痛みを、学びました。私は自分の無知さを後悔したと同時に、もっと世界について知っていきたくと思いました。

知らない文化や歴史を知ることは時に胸が痛むこともあるけれど、より多くの世界に触れて人生を通して学んでいきたい、そう考えるきっかけをくれたのがこの本です。



留学先の友人と(右が奥村さん)

奥村 凛さん 文学部 人文学科 3回生
 留学先大学:イリノイカレッジ(アメリカ)
 留学プログラム名:交換留学
 留学期間:2012年8月～2013年5月(10ヶ月)

本学では『A Lesson Before Dying』の翻訳版(『ジェファーソンの死』アーネスト・J・ゲインズ著;中野康司訳(集英社)1996年)を所蔵しています。原書の閲覧をご希望の方はILLをご利用ください。

2013年度 館別ベストリーディング 利用ランキング

2013年度(4月1日～1月20日)、衣笠図書館、メディアライブラリー、メディアセンターにおける利用回数(貸出+館内利用)トップ5の資料を紹介します。



衣笠図書館

順位	利用回数	タイトル・著者・出版社・出版年
1	241	『憲法』<第5版> 芦部信喜著;高橋和之補訂(岩波書店)2011年
2	178	『数的推理』<改訂版>(公務員試験新スーパー過去問ゼミ3;[5]) 資格試験研究会編(実務教育出版)2012年★
3	170	『ミクロ経済学』(公務員試験新スーパー過去問ゼミ3;[17]) 資格試験研究会編(実務教育出版)2011年★
4	167	『判例国際法』<第2版> 松井芳郎編集代表(東信堂)2006年
5	159	『総則物権担保物権』(公務員試験新スーパー過去問ゼミ3;[9].民法;1) 資格試験研究会編(実務教育出版)2011年★

メディアライブラリー

順位	利用回数	タイトル・著者・出版社・出版年
1	176	『最新業界地図』<2013年版> 成美堂出版編集部編(成美堂出版)2012年★
2	146	『マクロ経済学』(公務員試験新スーパー過去問ゼミ3;[18]) 資格試験研究会編(実務教育出版)2011年★
3	136	『TOEICテスト新公式問題集』<Vol. 4> Educational Testing Service 著;国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会編(国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会)2009年
4	127	『ミクロ経済学』(公務員試験新スーパー過去問ゼミ3;[17]) 資格試験研究会編(実務教育出版)2011年★
5	126	『日経業界地図:主要企業の実力と次の動きを読む』<2013年版> 日本経済新聞社編(日本経済新聞社)2012年★

メディアセンター

順位	利用回数	タイトル・著者・出版社・出版年
1	543	『化学大辞典』大木道則[ほか]編集(東京化学同人)1989年
2	524	『化学・生命科学系のための物理化学』Raymond Chang 著;岩澤康裕,北川禎三,濱口宏夫訳(東京化学同人)2003年
3	425	『ボルハルト・ショアー現代有機化学(上)』K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore [著];大嶋幸一郎[ほか]訳(化学同人)2004年
4	366	『ボルハルト・ショアー現代有機化学(上)』<第6版> K.P.C. Vollhardt, N.E. Schore [著];大嶋幸一郎[ほか]訳(化学同人)2011年
5	318	『ボルハルト・ショアー現代有機化学(下)』K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore [著];大嶋幸一郎[ほか]訳(化学同人)2004年

衣笠図書館、メディアライブラリーでは「進路・就職コーナー」*の資料(★)が大部分を占め、メディアセンターは全て化学系の資料という結果になりました。

*「進路・就職コーナー」では父母教育後援会のご支援を受け、資格取得や就職を支援する資料を数多く取り揃えています。

年度別、館別、分類別のベストリーディングは立命館蔵書検索システム「RUNNERS」からも検索できます。